

※このマップは現地取材や資料に基づいて作成されていますが、専門家に よって 諸説 あります。 真実 はあなた自身 が現地を訪れてみて 発見 してください。

距離：約9キロ サイクリング所要時間：約40分 ウォーキング所要時間：約120分

しのびよるこいはくせもの たきやしやひめ

忍夜恋曲者! 滝夜叉姫ゆかりの地を求めて

～玉山鉄道跡からいわき最大の前方後円墳・玉山古墳へ～



玉山古墳

1 JR 四ツ倉駅

明治30年(1897)、日本鉄道(日本初の民間鉄道会社)の駅として開業しました。近くの上井田地区にじゃんがら念仏踊を広めたという祐天上人の生家跡があることから記念パネルが駅前に設置されています。また四倉は海亀の産卵の北限地なので「ようこそ亀の町よつくらへ」と刻まれた時計台が時計台ががっつてありました。下井田地区の諏訪神社(仁井田重兵衛の屋敷跡といわれています)は浦島太郎の生誕地という説があり、これも亀の町らしい伝説です。

2 磐城セメント

(のちに住友大阪セメント) 工業跡地

明治41年(1908)操業。玉山の八茎鉱山は鉱石採掘と同時にズリとして大量の石灰石が産出されました。これをセメントに利用しようと八茎鉱山社長の広瀬金七と実業家・岩崎清七が磐城セメントを設立し、駅隣接に工場を建設しました。四倉町繁栄の礎でしたが、コスト問題などで昭和61年(1986)に工場は閉鎖され、現在は遊休地です。東日本大震災の際は仮設住宅が設置され、広野町、川内村、四倉町の被災者が入居しました。

3 セメント公園 (住友大阪セメント発祥の地碑)

明治39年(1906)にドイツのオット・ライメール商会と実業家・西村準三郎の共同出資で八茎鉱山合資会社を設立します。金・銀・銅などを産出しましたが次第に量が減少し、大正15年(1926)には八茎鉱山は磐城セメントに合併され、鉱山経営権も委譲しました。磐城セメントは戦後に住友セメント(のちに住友大阪セメント)に吸収合併されますが、同社の源流として碑が建立されています。

4 菅波魚店

昔ながらのお魚屋さん。新鮮なお刺身とおかあさん手作りの惣菜が人気で、アットホームな雰囲気も魅力です。

5 玉山鉄道廃線跡

明治40年(1907)、八茎鉱山から工場・駅まで石灰石や鉱石を運搬するために工場～玉山鉱泉間に軽便鉄道が作られました。当初は馬車鉄道でトロッコを牽引しましたが、大正2年(1903)に蒸気機関車に。また玉山鉱泉から鉱山までは牛馬で運搬していましたが、それも明治43年(1910)に索道(ロープウェイ)が完成し、近代的な鉱山経営が行われました。しかし昭和57年(1982)に廃止されました。

6 変眼阿弥陀堂

磐城平藩中老・鍋田三善(1778～1858)の『神社佛宇略記』によると、ご本尊は鎌倉時代の安阿弥の作といい、石城氏の護身仏であったといわれています。変眼とは妙な名前ですが『六太新報』によると「両眼にルビーとサファイヤが埋められていたため」とあります。付近の玉山は鉱山であることから興味深い記述です。

7 大野第一小学校(廃校)

明治6年(1873)6月開校。海軍大将・高木武雄(1892～1944)。玉山温泉の藤屋旅館の長男の母校です。また『ドレミの歌』の翻訳詞・歌唱で知られる歌手・タレントのペギー葉山(1933～2017)が小学生の頃に戦時疎開で8ヶ月ほど通学しました。そのご縁で平成25年(2013)にはペギー葉山出演で東日本大震災の復興祈願コンサートが開催されました。しかし児童数の減少などで令和2年3月に残念ながら閉校し、147年の歴史の幕を閉じました。

玉山は金・銀・銅などを産出する鉱山でしたが、そこにいわき市最大の玉山古墳が作られています。ヤマト王権のいわき支配に、これらの鉱山資源が使われたのかも知れません。さらに将門の娘・滝夜叉姫が隠れ住んだという不思議な伝説もあります。また八茎鉱山は戦国時代に常陸太田城主・佐竹氏が開発して江戸時代は磐城平藩が経営しましたが、明治時代に入ると近代的な鉱山経営が始まりました。磐城セメントの工場も作られ、集落も一大発展を遂げました。

両親が広島出身で、実は広島市内に疎開予定でしたが、「広島近くには呉軍港があり危険だ」と父の提案で玉山・大野の集団疎開に切り替え、原爆被災を免れました。

スラバヤ沖海戦では漂流した米兵を救助し、名將としてスミソニアン戦争博物館で紹介されています。

11 ワンダーファーム

年中、フルーツトマト狩り体験ができるトマトハウスと、採れたトマトや地域食材を使用したフレンチ&イタリアンレストラン、地域の特産品を集めた直売所、手ぶらでバーベキューや貸切キャンプ、食のイベントなどが楽しめる施設です。

10 大野観光いちご園

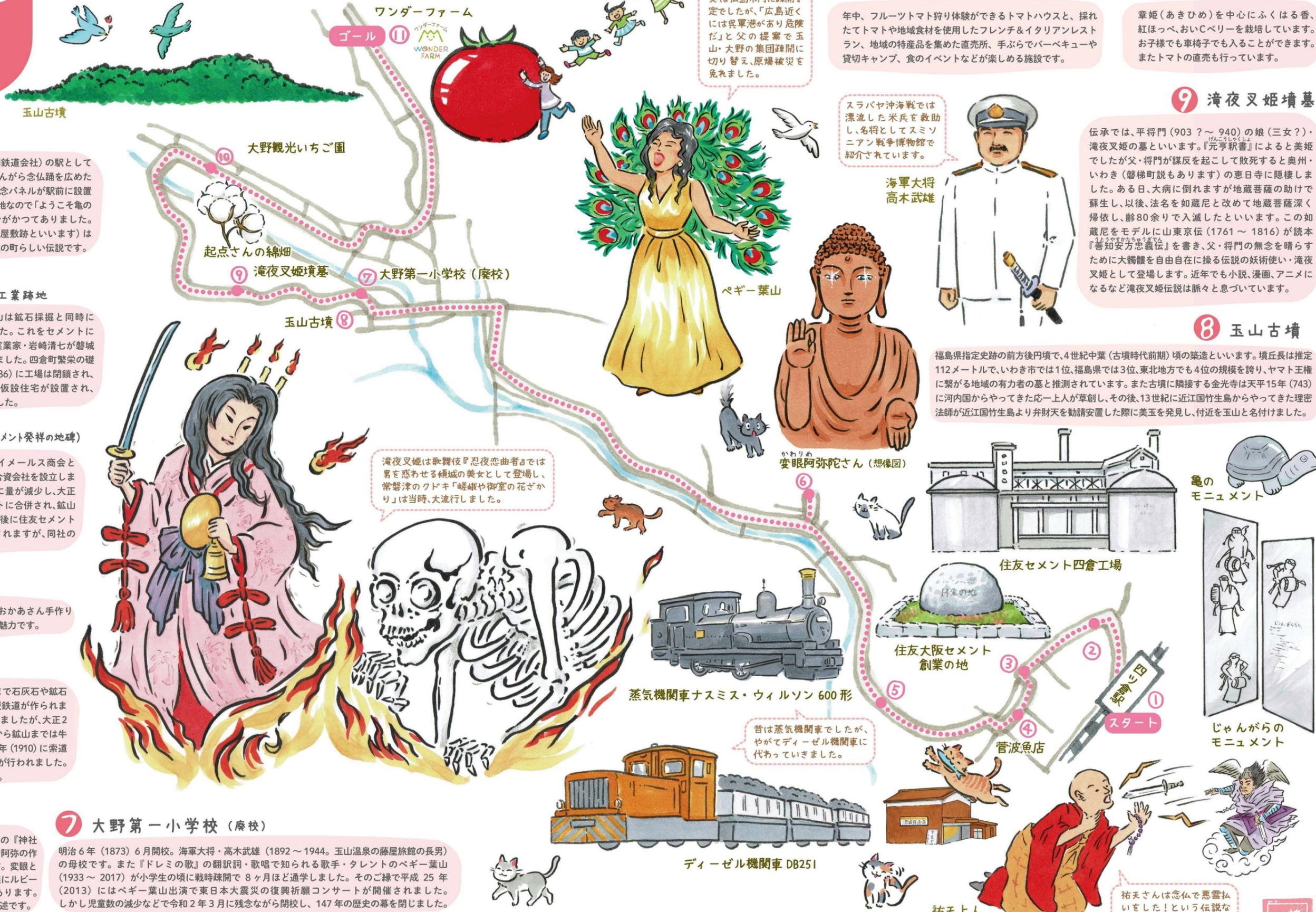
章姫(あきひめ)を中心にふくはる香、紅ほっぺ、おいベリーを栽培しています。お子様でも車椅子でも入ることができます。またトマトの直売も行っています。

9 滝夜叉姫墳墓

伝承では、平将門(903?～940)の娘(三女?)・滝夜叉姫の墓といわれています。『元亨釈書』によると美姫でしたが父・将門が謀反を起こして敗死すると奥州・いわき(磐梯町説もあります)の恵日寺に隠棲しました。ある日、大病に倒れますが地藏菩薩の助けで蘇生し、以後、法名を如蔵尼と改めて地藏菩薩深く帰依し、齢80余りで入滅したといわれています。この如蔵尼をモデルに山東京伝(1761～1816)が読本『善知安方忠義伝』を書き、父・将門の無念を晴らすために大腸腫を自由自在に操る伝説の妖術使い・滝夜叉姫として登場します。近年でも小説、漫画、アニメになるなど滝夜叉姫伝説は脈々と息づいています。

8 玉山古墳

福島県指定史跡の前方後円墳で、4世紀中葉(古墳時代前期)頃の築造といわれています。墳丘長は推定112メートルで、いわき市では1位、福島県では3位、東北地方でも4位の規模を誇り、ヤマト王権に繋がる地域の有力者の墓と推測されています。また古墳に隣接する金光寺は天平15年(743)に河内国からやってきた応一上人が草創し、その後、13世紀に近江国竹生島からやってきた理密法師が近江国竹生島より弁財天を勧請安置した際に美玉を発見し、付近を玉山と名付けました。



時空散走

植田・佐糠・金山 (植田駅)

距離：約7キロ サイクリング所要時間：約35分 ウォーキング所要時間：約100分

勿来発電所の集合煙突を仰ぎ見ながら ～植田宿、佐糠薬師堂を経て安寿と厨子王伝説の金山をゆく～

植田は鮫川の水運と浜街道の要地で、江戸時代には磐城平藩の口留番所(物資輸送の取締を行う)が置かれ、宿場町として発展しました。隣の佐糠は人口325名(『佐糠村明細帳』)の半農半漁の小さな集落でしたが、戦後、勿来発電所の誘致で一気に近代化が成されます。金山は明治44年(1911)、小浜町愛宕神社の古文書を整理した神官・鳥居玄明が『鏡ヶ丘由来記』を刊行し、その中で「安寿と厨子王伝説の地」として紹介されました。個性豊かな3つの集落を駆け抜けます。

1 植田駅

江戸時代は宿場町で延享4年(1747)の『植田村明細帳』には「家数159軒、人数742人、馬32匹、社家1軒、山伏4軒、酒屋3軒、大工2人、木挽1人、川では献上用のサケ・マスがとれた」などがあります。また平藩の植田陣屋(代官所)は現在のNTT東日本・勿来電話交換所付近にありました。明治30年(1897)、日本鉄道(日本初の民間鉄道会社)の植田駅が開業し、いわき地方南部を代表する商業都市として発展していきました。

2 吉田松陰来訪の碑

嘉永5年(1852)1月23日夜に吉田松陰が江戸から会津に向かう途上で植田を訪れています。松陰は当時21歳で長州藩を脱藩し、日本全国を放浪して知見を広げていました。その記念で昭和15年(1940)に当碑が建立されました。

3 鮫川河川敷公園・狸塚

かつて鮫川原野には狸や狐、野鳥が数多く見られましたが公園整備で野焼きを行いました。動物たちは逃げましたが、一匹の狸だけが逃げずに巣穴で焼死したといわれます。その慰霊のために元市議で鮫川水系河川改修促進協議会の会長を務めた関宮俊彦が建立しました。

4 だかしや

昔ながらの駄菓子店が店内所狭しと並んでいて、地域のこどもたちの憩いの場になっています。遠方客も多い植田の名店です。

5 佐糠薬師堂

佐糠村は泉藩領ですが、泉藩は明治初期の廃仏毀釈で領内の寺社を徹底的に破壊しました。薬師堂は古くは医王山東光寺(寺伝では安土桃山時代建立。廃仏毀釈で廃寺)と共に佐糠村入口付近にあったといいますが詳細不明です。薬師堂脇に石川成尹の墓があります。成尹は泉藩士で佐糠郷学校(植田小学校のルーツ)の教師で、成尹に学んだ人に鷺清吉(植田村、鮫川村の議員で明治21年に鷺酒造を創業。「清福」「勿来の関」は植田の名酒として有名です)がいます。また薬師堂入口の石柱裏に大正14年の奉納者として古川権左衛門の名があります。大同2年(807)、和歌山から錦町の御宝殿野神社(菊多郡の総鎮守)を勧請したさいに馬の口取りをした一族といわれます。いまも例祭(稚児田楽・風流は国指定重要無形民俗文化財)には「古川権左衛門奉仕の呼び出し」が行われます。

6 佐糠八幡神社・鎮魂の碑

社伝では鎌倉時代建立といわれます。5年毎に例大祭(9月)で三匹獅子が奉納されます。三匹獅子は江戸時代初期の発祥といわれ、地域の小学生が獅子に扮して五穀豊稔の舞を披露します。また廃仏毀釈で東光寺が破壊され、その墓石が鮫川の護岸に利用されたので、神社西側に「鎮魂の碑」があります。

7 佐糠落雁の碑

相楽等躬(1638～1715。内藤露沾や松尾芭蕉と交流があった俳人)の「夜は分る孤雁なるらん捨小舟(夜にはくれた孤雁のように捨てられた小舟がみえる)の句碑です。夕焼けに紅く染まった佐糠の海を飛翔する雁は美しく、磐城平藩主・内藤露沾の次男・内藤露沾(1655～1733。芭蕉のパトロンでもあった)が「勿来八景(大高朝霞・関田晩鐘・湯嶽晴雪・小崎夜雨・平湯帰帆・佐糠落雁・小濱夕照・中田秋月)」に選んでいます。

8 常磐共同火力勿来発電所専用線跡

昭和30年(1955)、常磐炭田の低品位炭の活用で東北電力、東京電力、炭鉱会社が常磐共同火力株式会社を設立。勿来市長・古川傳一(1897～1967)は佐糠の土地、約15万㎡を無償提供することで茨城県との誘致合戦に勝利し、昭和32年(1957)に発電所が完成しました。工場夜景「勿来ゆめライト」(集合煙突のライトアップ)は有名です。専用線は植田駅から発電所を繋ぎ、常磐炭田の石炭や発電所から出るフライアッシュ(石灰質。セメント混合材になる)を輸送していました。しかし常磐炭田の石炭量減少やトラック輸送への切替などで昭和56年(1981)に廃線となり、現在は住宅地や道路です。

9 出羽神社・古川傳一翁像

社伝では大同元年(806)勧請といわれます。江戸時代は羽黒権現でしたが泉藩の廃仏毀釈で仁王門や観音堂などが焼かれ、出羽神社となりました。「金山の昔を伝える会」によれば中世、当地には塩谷城があり、厨子王が国司となった後、亡き父の仇・村岡重頼を討伐した場所といわれます。また参道脇に古川傳一の銅像があります。傳一は植田で古川酒造(現在のセブンイレブンいわき植田町中央1丁目付近)を営みながら福島県議会議員、植田町長、勿来市長を歴任し、鮫川堰の設置(1939)などでも地域の発展に貢献しました。

10 安寿姫厨子王母子像

金山は戦前は山林地帯でしたが戦後、開発され一大住宅地となりました。住民が増えると金山の安寿と厨子王伝説を紹介する『鏡ヶ丘由来記』が注目を浴び、昭和48年(1973)に「安寿と厨子王丸遺跡顕彰会」が発足。EPレコード「安寿悲歌/厨子王哀歌」(歌:青山和子/三鷹淳)を発売し、翌年(1974)には母子像を建立しました。平成11年(1999)には「金山の昔を伝える会」が発足し、現在は毎年5月に「安寿と厨子王まつり」を開催しています。

※このマップは現地取材や資料に基づいて作成されていますが、専門家によって諸説あります。真実はあなた自身が現地を訪れてみてください。

UEDA 植田・佐糠・金山

距離：約10キロ サイクリング所要時間：約60分 ウォーキング所要時間：約150分

夏井川から霊峰・関伽井嶽薬師を望む

～赤井凱旋門から鬼馬童子、からし坊主、龍燈伝説の地へ～

1 赤井駅

明治中期に炭鉱会社が赤井地区で採掘を始めると、明治40年(1907)、赤井・常住と平を結ぶ赤井軌道(馬にトロを曳かせて石炭を運ぶ馬車鉄道)が開業しました。大正4年(1915)に平野東線(現在の磐越東線)が平野～赤井駅～小川郷駅間(10.3km)で開業すると赤井軌道は赤井常住から赤井駅までとなり、のちに品川白煉瓦株式会社の専用軌道になりますが1955年に廃線となりました。また『赤井郷土誌』(1969年発行)によると、かつて駅前に「赤井焼」の最後の陶工師・鈴木達男氏がいました。赤井の良質の粘土を利用した焼きものですが残念ながら現在は絶えてしまいました。

2 愛谷江筋・取水堰

江戸時代に磐城平藩主・内藤家の命令で平鎌田生まれの三森治右衛門(1636～1694)が開削しました。治右衛門は澤村勘兵衛(1613～1655)の下で小川江筋の開削に従事し、勘兵衛死後、工事を完成させたといわれています。その後、延宝2年(1674)には愛谷江筋に着手し、6年の歳月をかけて完成させました。小川江筋の灌漑面積1200ヘクタール、愛谷江筋500ヘクタールによって磐城平藩の石高は安定し、多くの農民たちが救済されました。治右衛門の墓(法名・白鳥居士)は鎌田町・延命地蔵尊内にありましたが戦後に平・山崎に建立された水守神社(ご祭神・三森治右衛門)に移されています。

3 赤井凱旋門

日露戦争(1904～1905)の戦勝記念として旧・赤井村の入口であった愛谷橋(茨原川に架橋)に建立されました。昭和59年(1984)の県道拡幅工事で撤去されましたが平成19年(2007)に再建されました。福島県内では唯一、国内でも非常に稀で貴重な凱旋門といわれています。

4 磐城橋(曲田仕置場跡)

江戸時代には当地に曲田橋があり、その袂に仕置場がありました。『石城郡誌』には大強盗の長・折笠虎之助は曲田で処刑され、腑分け(解剖)すると常人より3倍ほど大きい肝で世人を驚かせたと記録されています。ちなみに虎之助の父・林右衛門も義侠の博徒で茨城から来た悪党・金八が小川郷の人妻を盗むなど狼藉を働いた時にこれを討ち、晩年は白髪の老人なのに神谷村で暴れ狂う大猪に立ち向かい、落命したといわれています。刑死者供養のための川端地蔵尊がありましたが現在は安養寺内にあります。

5 華正楼

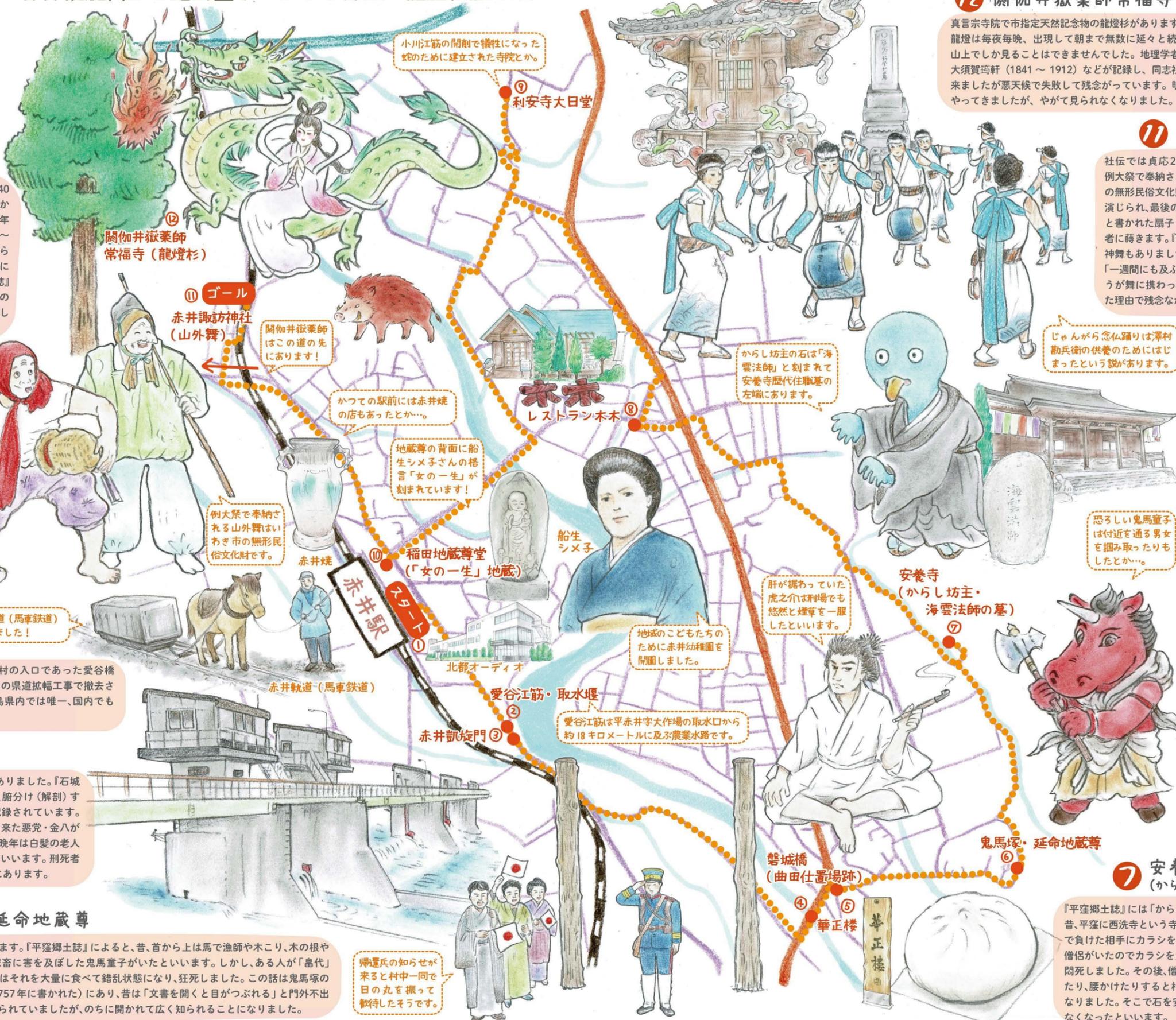
創業者は横浜中華街の華正楼で修行しました。2代目が始めた豚まんが人気で、平窪の名店として知られています。

6 鬼馬塚・延命地蔵尊

地蔵尊周辺は鬼馬塚といわれています。『平窪郷土誌』によると、昔、昔から上は馬で漁師や木こり、木の根や木の株に化身して人間や家畜に害を及ぼした鬼馬童子がいたといわれています。しかし、ある人が「皇代」という毒草を植えると童子はそれを大量に食べて錯乱状態になり、狂死しました。この話は鬼馬塚の旧家の古文書(宝暦8年・1757年に書かれた)にあり、昔は「文書を開くと目がつぶれる」と門外不出の禁断の書として神棚に祀られていましたが、のちに開かれて広く知られることになりました。

帰還兵の知らせが来るかと村中一同で日の丸を振って歓待したそうです。

いわきを代表する聖山が関伽井嶽(赤井岳)。赤井とは、じつは赤い大猪のことで、その退治伝説などもありますが(猪狩姓は赤猪を退治した一族の末裔とか)、なによりも有名なのは龍燈伝説でしょう。龍宮城に住む乙姫が難産で苦しんださいに関伽井嶽薬師が救済し、その御礼で夜になると、いわき七浜に龍燈が現れて夏井川を遡上し、関伽井嶽薬師を参拝したといわれています。その関伽井嶽薬師のお膝元で夏井川流域の赤井・平窪エリアを巡ります。



12 関伽井嶽薬師常福寺(龍燈杉)

真言宗寺院で市指定天然記念物の龍燈杉があります。昔はここから龍燈を見学したといわれています。龍燈は毎夜毎晩、出現して朝まで無数に延々と続いたといわれていますが、なぜか関伽井嶽薬師の山上で見学することはできません。地理学者・長久保赤水(1717～1801)や漢学者の大須賀鶴軒(1841～1912)などが記録し、同志社設立者の新島襄(1843～1890)も見物にきましたが悪天候で失敗して残念が残っています。明治中頃までは全国的に有名で参拝客も大勢やってきましたが、やがて見られなくなりました。いわき最大の謎の奇蹟です。

11 赤井諏訪神社(山外舞)

社伝では貞応2年(1223)年勧請といわれています。毎年8月の例大祭で奉納される山外舞は昭和51年(1976)にいわき市の無形民俗文化財に指定されました。大黒舞、稲荷舞などが演じられ、最後のひょっとこ舞では演者総出で踊り、山外舞と書かれた扇子(縁起物で魔除けになる)や紅白の餅を参拝者に蒔きます。『いわき市史』には、かつては翁舞と三番叟の神舞もありましたが「舞人は相当の家柄の者に限ったこと」「一週間にも及ぶ厳しい潔斎を強いられたこと」「偶然であろうが舞に携わった者が早世する傾向にあったこと」といった理由で残念ながら断絶したとあります。

10 稲田地蔵尊堂(「女の一生」地蔵)

「親兄弟を大切にやる」「夫を立てて子供の躰を肝要とする」「人と人との出会う大切に」「人生の幸不幸は愛の対象による」「体の健康を第一にする」の五か条「女の一生」が背面に刻まれた地蔵尊があります。建立者の船生シメ子は船生鉱山、昭和産業の女社長として財を成し、また戦後の混乱期で大変な状況にあった地域のこどもたちのために赤井幼稚園を開園しました。

9 利安寺大日堂

澤村勘兵衛が小川江筋の工事中に難所の横山の岩石を切り通すと大量の蛇が現れました。勘兵衛は慰霊のために蛇塚を築き、そこに大日如来を勧請したのが利安寺大日堂の起りといわれています。小川江筋最大の功業者であるはずの勘兵衛は、なぜか失脚して切腹をしましたが、その墓が当地にあります。また無念の最期を遂げた勘兵衛の供養のために農民たちが始めたのがじゃんがら念仏踊りという説があります。

8 レストラン木木

昭和63年(1988)創業のログハウスレストランです。「3代に喜んでもらえる」をコンセプトに豊富なメニューがあります。

7 安養寺(からし坊主・海雲法師の墓)

『平窪郷土誌』には「からし坊主」の伝説が記載されています。昔、平窪に西洗寺という寺があり、その僧侶は賭け事が大好きで負けた相手にカラシを食べさせました。ある日、大負けした僧侶がいたのでカラシを大量に食べさせると、あまりの激辛で悶死しました。その後、僧侶の家の跡地にあった石を踏みついたり、腰かけたりすると村にタタリが起こるようになりました。そこで石を安養寺に納めるとタタリはなくなったといわれています。

恐ろしい鬼馬童子は付近を通る男女を掴み取ったりもしたとか。

じゃんがら念仏踊りは澤村勘兵衛の供養のためにはじまったという説があります。

からし坊主の石は「海雲法師」と刻まれて安養寺歴代住職墓の左端にあります。

肝が据わっていた虎之介は現場でも悠然と煙草を一服したといわれています。

地域のこどもたちのために赤井幼稚園を開園しました。

愛谷江筋は平赤井宇大作場の取水口から約18キロメートルに及ぶ農業水路です。

小川江筋の開削で犠牲になった蛇のために建立された寺院とか。

かつての駅前には赤井焼の店もあったとか。

地蔵尊の背面に船生シメ子さんの格言「女の一生」が刻まれています!

例大祭で奉納される山外舞はいわき市の無形民俗文化財です。

昔は赤井軌道(馬車鉄道)が走っていました!

※このマップは現地取材や資料に基づいて作成されていますが、真実はあなた自身が現地を訪れてみて発見してください。

距離：約9キロ サイクリング所要時間：約40分 ウォーキング所要時間：約120分

天下の名城・磐城平城から城下町・平を巡る

～磐高、磐女の青春の舞台から歌人・田部君子ゆかりの地まで～

徳川家康は伏見城の戦い(関ヶ原の戦いの前哨戦)で壮絶な戦死を遂げた鳥居元忠を褒め称え、慶長7年(1602)、息子の鳥居忠政に磐城10万石を与えます。忠政は伊達氏への威圧、防衛として12年もの歳月をかけて磐城平城を築城すると幕府に高く評価され、山形20万石に栄転しました。壕の形が龍の文字に似ていた事から別名「龍ヶ城」と呼ばれ、独眼竜政宗を牽制した磐城平城と、その城下町を歩きます。

1 いわき駅 (旧・平駅)

明治30年(1897)に平(たいら)駅として開設。当時の駅員は信号機のランプ油を舐めにくる城山の狐を追い払うのが仕事だったといわれています。平成6年(1994)に現駅名に改称しましたが、いまだに旧駅名を懐かしむ方が大勢います。駅直結の商業施設「エスパルいわき」にある平の歴史、文化、物語を鳥瞰図で描いた「いわき平時空マップ」は必見です!

2 磐城平城本丸跡地

美しい三階櫓が聳え立っていたといわれています。鳥居家、内藤家、井上家、安藤家が藩主となりましたが戊辰戦争後に廃城となりました。2024年に平城のガイダンス施設がオープン予定です。

3 丹後沢公園

忠政が「後沢」という沼を堰き止めて城の内堀にしたといわれています。難工事で何度も失敗し、菅波村の箱崎丹後守義明という90歳超えの老人を人柱にして完成したという伝説があります。

4 磐城桜が丘高等学校

前身は明治37年(1904)開校の私立磐城女子高等学校として通称「磐女(ばんじょ)」と呼ばれ、男子校の磐城高校と並んで福島県内有数の進学校でした。平成13年(2001)に男女共学化して現校名に。桜丘会館の本館(昭和13年竣工。木造2階建)と新館(昭和27年竣工。木造2階建)は国有形文化財登録です。

5 磐城高等学校

明治29年(1896)に福島県尋常中学校磐城分校として開校。通称「磐高(いわこう・ばんこう)」です。経済学者の榊田民蔵(1885～1934)、海軍大将の高木武雄(1892～1944)、福島県知事の木村守江(1900～1996)、詩人の草野心平(1903～1988)、タカラ(現タカラトミー)創業者の佐藤安太(1924～2019)など著名人を多数、輩出しています。また史学部の生徒が1948年に神谷作古墳群から発掘した天冠埴輪(重要文化財)が校内に保管されています。

6 菩提院

浄土宗の名僧、袋中上人(1552～1632)は、磐城平13万石の戦国大名・岩城貞隆(1583～1620)の帰依を受け、慶長4年(1599)菩提院を開基しました。その後渡明求法を志した上人は、果たせず琉球王国に滞在し(1603～1606)念仏を琉球に初めて伝え、その教えが当地の歌謡りと融合し、エイサー踊りの起源となりました。

7 藤田女学校跡(歌人・田部君子の母校)

高等女学校令(明治32年・1899)で私立の女学校設置が認められ、平町でも近代的女子教育を広めようと明治38年(1905)、平陽女学校、藤田女学校が相次いで開校しました。藤田女学校で学んだ田部君子(1916～1944)は若くして短歌結社・潮音社に加入して活躍した天才女流歌人です。20歳で大家族の農家に嫁ぎましたが家庭と創作の両立に悩み、結局、息子を連れて家出します。昭和14年(1939)、単身上京して夫と離婚しましたが、憧れの東京歌壇は戦争賛美だらけで失意の君子は歌を辞めます。その後、再婚して2人目の息子を産みますが昭和19年(1944)、戦争の最中に肋膜炎を悪化させ、27歳の短く儂い生涯を終えました。

8 山形屋

かつて平には平遊廓と鎌田遊廓がありました。明治初期は子歎倉神社門前に古い芸妓屋がありましたが、黒ダイヤと呼ばれた石炭産業の勃興(炭鉱労働者が平に集まった)や平駅開業などで徐々に発展。明治39年(1906)、市街地の3分の2を焼失した「平大火」が起こると平町議会は災害復興で甲子楼・栄楼・大宝楼・住吉楼・小泉楼の五業者に土地を貸出して江戸情緒溢れる一大歓楽街を形成しました。大正5年(1916)の最盛期には168名もの芸妓がいたといわれています。山形屋は平芸妓の花街文化を今に伝える創業100年以上の老舗の和楽器屋(三味線、琴など)さんです。

9 鷹崎千代子胸像

かつて当地に鷹崎幼稚園がありました。鷹崎貞衛(平町会議員/石城林業社長)の妻・千代子は、いわき初の近代的女子産婆学校を作り、生涯で約2000名の産婆を育成したといわれています。また長男の正見は柔道家で嘉納治五郎の娘と結婚し、日本飛行機の社長を務めました。

16 東日本国際大学 (五霊神社・元文義民之碑)

前身は昭和41年(1966)開学の昌平賢短期大学(初代名誉学長は歴史小説家・山岡荘八。現在のいわき短期大学)です。平成7年(1995)に商経科を分離・改組して東日本国際大学を設立。留学生数(約1500名)は全国の大学の中でもトップクラスです。また大学隣接の五霊神社に元文義民之碑があります。

15 河原地蔵堂 (首切り地蔵)

元文3年(1738)、磐城平藩・内藤家の重税に苦しんだ農民約2万人が決起する元文一揆が起こりました。内藤家は農民側の要求を認めましたが首謀者の吉田長治兵衛ら8名を捕縛し、翌年、鎌田河原で斬首。後年、義民供養のための地蔵尊が建立されました。

14 釜屋跡 (サロン・ド・蔵)

元禄13年(1700)、磐城平藩の御用商人・初代権名久太郎(名字帯刀が許されて諸橋を名乗る)によって「釜屋」が創業されました。平最大の豪商となり、3代諸橋久太郎(1893～1973)は平市長を務めました。また実弟の諸橋元三郎(1897～1989)は私設図書館・三猿文庫(蔵書5万5000点余)を開設し、郷土研究に多大な功績を残しています。土蔵造の店蔵と対火レンガ造の袖蔵を洋風の石張り建築で繋ぐという独特の歴史的建造物です。

13 Guesthouse & Lounge FARO iwaki

1階がカフェラウンジ、2階がドミトリー(宿泊施設)、3階はイタリアンレストラン「La Stanza(スタンツァ)」です。多種多様なイベント、ワークショップが行われ、平を代表するコミュニティ・スペースですが、何も無い日でも美味しい地元産の食材を用いたメニューやスイーツが楽しめます。

12 廿三夜尊堂

江戸時代には当地に菩提院があり、現在の南町は菩提院町と称しました。菩提院移転後、女性の守護仏として信仰を集める勢至菩薩が祀られ、廿三夜尊縁日には露店が並び大賑わいだったといわれています。また以前は刑場で、その供養塔があります。

11 いわき平競輪場

1951年開設。バンク(競争路)の外側ではなく内側からレース観戦できる国内唯一の競輪場で競輪選手の大迫力の疾走を間近で体感できます。入場無料。

10 いわき芸術文化交流館 アリオス

コンサートホール、劇場、舞台芸術練習場などからなる芸術文化交流施設です。毎年8月には全国高等学校フラ競技大会「フラガールズ甲子園」を開催します。

距離：約9キロ サイクリング所要時間：約40分 ウォーキング所要時間：約120分

伝馬船の時代から末続の海は今日も青く

～神機隊の激戦地から遠藤氏の殿上館跡まで～

1 末続駅

明治31年(1898)に常磐線が開通しましたが広野駅(広野町)と久ノ浜駅間は8.4kmと長く戦時中の昭和19年(1944)に緊急時用の信号所が末続に開設されました。戦後、地元住民は駅昇格のために松茸や干柿を手土産に関係者に陳情を繰り返して、結果「地元側が駅舎を建設すること」を条件に認可されました。住民は共有林を伐採して資材提供し、延べ3000人の労力で昭和22年(1947)に駅が開設されました。

2 縣令島田君碑

天保7年(1836)の飢饉のさいに小名浜代官・島田帯刀は幕府に無断で年貢徴収を延期し、備蓄米を配給して貧民を救済しました。幕府からは職権乱用で咎められ、御書物奉行の閑職に追いやられますが住民の嘆願で天保14年(1843)、再度、小名浜代官に復職しました。石碑の「縣令」とは代官の事で帯刀の偉業を顕彰したものです。

3 根渡山末續寺

寺伝では永和2年(1376)、法印通翁の開山ですが元禄時代に伽藍を焼失し、詳細不明です。本堂内に妙見尊像があり、戊辰戦争(1866)で敗走した相馬藩兵が預けたという伝承があります。また長州の奇兵隊を参考に広島藩の武士、農民、商人で結成された「神機隊」の林熊太郎(享年24歳)の墓があります。林は戊辰戦争・末続の戦いで負傷し、当時の戸長・鈴木常右衛門の屋敷で亡くなったといわれています。神機隊326名は自費で新政府軍に参加し、浜通りで激戦を重ね、仙台入城したさいは死者・重傷者が3分の2に達しました。本堂横の太子堂は、かつて末続浜に聖徳太子の木像が乗った丸木船が上がり、それを祀ったものといわれています。太子は仏教伝道のために寺院を建立したので職人の祖として崇められ、末続寺の太子講(戦後に一時期、開催された)は、いわき中の大工、職人1000名以上がお参りしたといわれています。

4 すえつぎ CAFE

オーナーの岡森一史さんは大阪でサラリーマンをやりながら関西各地のカレーを食べ歩いて研究し、大阪のダシ文化と福島食材を融合させたスパイスカレーを完成させました。自家焙煎に拘った珈琲も名物で、担当する岡森綾子さんは歌手&ボイストレーナーで、時折、カフェでライブなども開催されます。

5 塩民・大山神社

末続浜では昔、塩作りが行われていました。塩民の字(あざ)はその名残といわれています。「郷土誌久之浜」によると、かつては塩民鉱泉が湧出していました。ほんのりと淡黄色のアルカリ性の塩類泉で皮膚病、婦人病に効果があったとか。また塩民の旧道の竹藪には坑口があり、炭鉱が採掘された時期もあったといわれています。当地の大山神社には鉱山関係者が訪れたかも知れません。

6 金ヶ沢の勘太郎(金ヶ沢・見渡神社)

見渡神社のある集落を金ヶ沢といいます。『西郊民俗』によると昔、人を殺めた鍛冶職人が金ヶ沢に逃げましたが潜りの名人・遠藤勘太郎は職人を匿しました。ところが職人は贖金作りを始め、それが発覚したのでまた逃亡します。数年後、偶然、勘太郎が職人と再会し、職人は世話になった御礼に羽羽三山・月山に奉納の名刀を打ち直してナサン(魚刺し)の「月山丸」を作りました。多くの獲物が取れ、海水も三尺ばかり割けて海中に往来できたといわれています。また平・絹谷の青雉の大蛇が堤を堰き止めた時に勘太郎は月山丸を持って「池が青いままなら蛇に食われて失敗。赤くなれば成功だ」と池に潜りました。やがて池は真っ赤に染まり、見事、大蛇を討ちました。勘太郎死後、子孫が月山丸を打ち直して数本のナサンを作りましたが残念ながら普通のナサンになったといわれています。

7 故殿上館ノ城主外一同之碑(津守神社)

津守神社境内にあります。かつて当地に殿上館があり、遠藤氏の居城でしたが、岩城氏に攻められて落城したといわれています。昭和8年(1933)に遠藤氏の子孫・末裔の方々が建立した石碑には城主、奥方、姫、家臣の他、「谷泉力士」「風呂番幸吉」「洗濯婆トメ」「八歳ノ赤馬」「政五郎因縁野狐(政五郎に憑依した狐?)」など81名の名前が記載されています。また落城した日が「えびす講」の縁日であったので、いまも子孫・末裔の方はえびす講を行わないといわれています。

8 星廻宮神社

以前の社殿は東日本大震災で流出し、現在の社殿は元はアサヒビール西宮工場にあった旭社でした。昭和3年(1928)に企業内神社として建立され、西宮空襲や阪神淡路大震災も乗り越えてきましたが、いわき復興のために兵庫県神道青年会などの支援で当地に贈られました。

9 菓匠梅月

明治24年(1891)創業の老舗和菓子屋さんです。東日本大震災で津波に遭い、その後の火災で全焼しましたが「もう一度、梅月のかしわ餅が食べたい」という地元住民の声に奮起し、震災から1年後に国道6号線沿いに移転して再開しました。久之浜のお土産としてぜひ!

梅月堂菓子舗
かしわ餅は特産品です!
梅月さんの昭和初期のポスター。

遠藤勘太郎の子孫の家には大蛇を退治する様子を描いた「勘太郎縁起」がいまも伝えられています!

木造駅舎の赤い屋根が目印です。

末続の青い海は、駅のプラットフォームから見えます。

農民の方は島田代官の善政に感涙したので「聖涙の碑」と呼ばれました。

末続には神機隊士・林熊太郎の墓があります。砲隊長の高間省三は小説の主人公にもなり、近年、注目されています。

まちネタ③陰磯(現・久之浜漁港)
江戸時代、この辺りは久之浜のまちからは殿上山の裏手で見えなくて陰磯といわれました。江戸時代初期には大須賀次郎左衛門こと五郎丸という久之浜の名主が幕府の鎖国政策を無視して海外密貿易を行って巨万の富を蓄えたという伝説があります。この次郎左衛門家はのちに廻船問屋として成功し、その末裔に大須賀茂盛(1845～1878)がいます。漢詩人・郷土史家の大須賀鈞軒(1841～1912)の妻で漢詩・書画にも通じ、鈞軒の代議を務めるほどの賢婦人でしたが、33歳の若さで夭折しました。

まちネタ④遠藤造船所跡
久之浜最後の木造船の船大工であった故・遠藤行道さんは2008年発足の「よみがえり伝馬船・プロジェクト」に参加し、海竜丸を製作しました。昔は末続、久之浜一帯で数多くの伝馬船が使用され、行き来していたといわれています。

まちネタ⑤いわき七浜海道サイクリングルート起点
久之浜東三松にあります。東日本大震災の復興事業で整備された防潮堤や国道、県道、市道などを繋ぎ、久之浜防災緑地から勿来の関公園まで約53kmのサイクリングロードです。

まちネタ⑥金ヶ沢の勘太郎(金ヶ沢・見渡神社)
東条英機首相が満州から日本に密輸した幻の黒豚が一時期、末続で飼育されていました!

まちネタ⑦故殿上館ノ城主外一同之碑(津守神社)
遠藤さんが手掛けた伝馬船「海竜丸」は現在、アクアマリンふくしまの伝馬船工房に展示されています!

海の方たちは伝馬船にのって、こっそりと博打穴に遊びにいったとか。

すえつぎ CAFE
すえつぎ CAFEはキッチンカーもあり、いろんなイベントや祭事に出店して人気です!

まちネタ⑧星廻宮神社
星廻宮神社
星廻宮神社で新春に実施される「だるま市」は100年以上の歴史があり、浜の風物詩です。

まちネタ⑨梅月
梅月
梅月堂菓子舗

まちネタ⑩末続駅
末続駅

このマップは現地取材や資料に基づいて作成されていますが専門家によって諸説あります。真実はあなた自身が現地を訪れてみて発見してください。

あ 諸 説

「I WAKI」 末続・久之浜

距離：約10キロ サイクリング所要時間：約60分 ウォーキング所要時間：約150分

近代いわきの先駆！笠間藩領の草野・神谷をゆく

～死人田、片寄平蔵門から
ダイダラボーの沼まで～

16 笠間藩神谷陣屋跡 (現・平第六小学校界隈)

神谷陣屋には50名ほどの笠間藩士が常駐していました。戊辰戦争では笠間藩は新政府軍につき、陣屋兵たちは奥羽列藩同盟軍に囲まれて絶対絶命の四面楚歌となります。しかし薬王寺、八基山と戦いながら必死に抵抗し、援軍の到着で平城が落ちて勝利しました。

15 十九夜様と剣八幡

慶長年間(1596～1615)に瀬戸に住み着いた夏井武衛門は親の仇討にやってきた若い姉弟を返り討ちにします。しかし姉弟の祟りに怪異が起こり、それを鎮めるために姉のために十九夜様を、弟のために剣八幡を祀ったといわれています。

14 夏井川・川中島 (仕置場跡)

当地に笠間藩・神谷陣屋の仕置場がありました。重罪人は瀬戸にあった牢屋を出て所廻しをされ、仕置されました。

13 荻萱 (中神谷代官所跡)

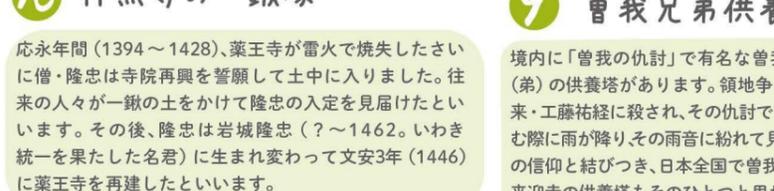
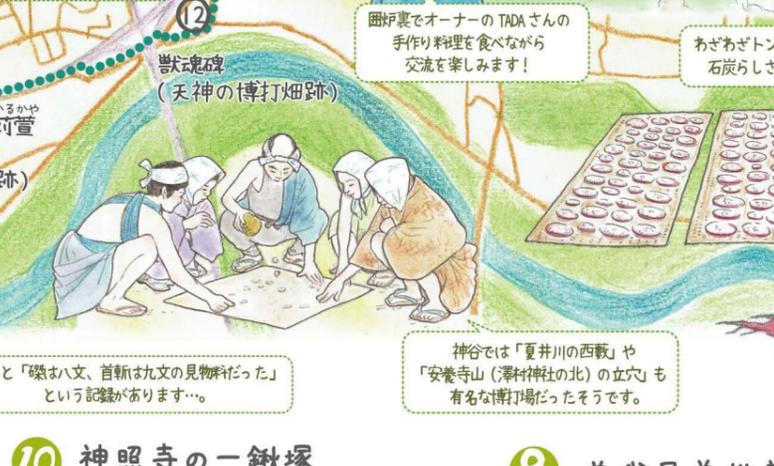
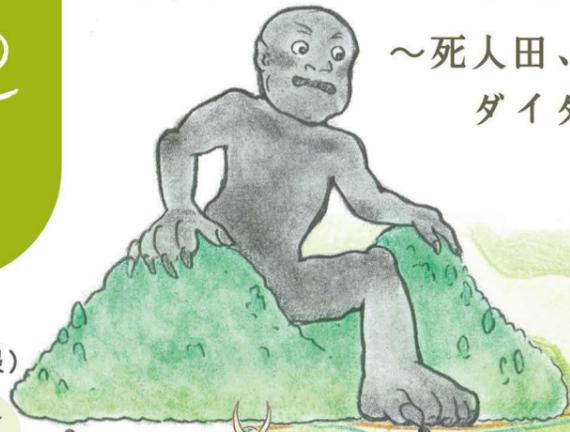
寛延元年(1747)、内藤家が延岡に転封すると中神谷は幕領となり(その後、笠間藩領となる)、代官所が当地に置かれました。この代官所で荻萱道心(正室と側室の確執と憎悪に罪を感じた武士が家族を捨てて高山山僧・道心となり、その後、母を亡くして天涯孤独の身となった息子・石重丸が訪ねてくるが、父と名乗らずに共に修行をする)の芝居が行われ、その由縁で荻萱の字名が残っています。

12 獣魂碑(天神の博打畑跡)

平成12年(2000)に業務終了した平畜産センターの跡地です。このあたりの字は「天神」といいますが、『神谷村誌』(志賀伝吉著)によると天神には「博打畑」があったといわれています。

11 愛宕花園神社

子育てのお宮さんとして篤く信仰され、かつては安産祈願や婦人病平癒のために「鮑の絵馬」を奉納しました。また境内に内藤義概(排号：風虎/1619～1685)の句碑「阿すよりや秋の波那その 祭り客」があります。義概は磐城平藩3代目藩主ですが俳諧に通じ、江戸藩邸には数多くの文化人が出入りし、その中には若き松尾芭蕉もいました。近世箏曲の父・八橋検校を召し抱え、義概作詞の曲なども残っています。しかし晩年、俳諧に夢中のあまりに藩政を疎かにして「小姓騒動」(小姓あがりの家老・松賀旅之介の専横と失脚)が起こりました。この小姓騒動や元文義民一揆(元文3年・1738)の失政で内藤家は延岡転封になったという説もあります。



神谷には笠間藩の陣屋がありましたが、じつは笠間藩は神谷、草野、四倉、三和町、田村郡にも飛び地を持ち、幕末のいわき地方では最大の藩領3万2000石(平藩3万石、泉藩2万石、湯長屋藩1万5000石)を有していました。戊辰戦争でも新政府軍についた笠間藩は「勝ち組」となり、明治初期に平にできた「磐城平民政局」は笠間藩士が主導して政務を司りました。また笠間藩御用達の材木商人が片寄平蔵(1813～1860)で常磐炭田の発見者として近代いわきの発展に多大な功績を残しています。他にも郷土研究家の高木誠一(1887～1955)も神谷出身で柳田國男らと交流し、いわき民俗学のパイオニアとなりました。

1 BLUE MUG COFFEE

いわきエアコンが地元の人が集まるコミュニティの場所を作ろうと敷地内にカフェを作りました。おいしいコーヒーや焼き菓子などがあり、オリジナルのブルーのマグカップがかわいいと評判です。

2 光明寺

慶安3年(1650)、磐城平藩の郡奉行・澤村勘兵衛(1613～1655)が早稲被害の調査で寺に立ち寄り、「名には似ぬ泉崎(光明寺あたりの地名)にて水に飢へ美ならぬ村の寺の淋しさ」と口吟すると当時の住職・歎願上人は「稲の為江水引かれよ 閑場より用ゆる水は山の麓を」と返歌し、これをヒントに勘兵衛は小川江筋を開削したといわれています。また片寄平蔵は大森村(現・四倉町大森)生まれで光明寺の檀家だったので平蔵の墓もあります。

3 死人田跡

どうも昔百目木には「死人田」があったといわれています。田を作ると必ず人が死ぬので誰も作らなくなり、光明寺に預けられましたが、明治半ばに常磐線の敷地となりました。線路を作るために田の土を掘ったので「汽車沼」ができ、そのあたりが死人田跡といわれています。

4 旧・片寄平蔵宅乳房門

片寄平蔵は江戸藩中に黒船の動力源が石炭であると聞いて石炭探しを始め、安政2年(1855)、白水村弥次郎で石炭の露頭を発見しました。横浜で石炭商を始めると幕府の御用商人になり、巨万の富を得ました。商談の接待で吸物に小判を入れたり、遊廓の3階から小判をばらまいて「盛った盛った大森平蔵」と流行歌に謳われたといわれています。しかし外国人との交流や派手な振る舞いが売国奴と見なされたのか、天狗党に敵視されて、48歳で暗殺されました(諸説あり)。大森にあった平蔵の生家は戦後に解体されましたが平蔵門(乳房門)は細谷の芳賀家に現存しています。

5 がんぷいほうす

享保年間(1716～1736)に建てられたという伝統的な建物を活かしたいわき市初の農家古民家ゲストハウスです。自然と共生していた昔の日本の生活が体験でき、インバウンドでも大人気です。(公式サイト：<https://gamp-nippon.com/>)

6 赤沼の巨人(ダイダラボー)伝説

高木誠一の記録によると赤沼には「まんごう」という一反歩(約1000平方メートル)のヤチボ(じめじめした田)があり、そこは「大人の足跡」で巨人(ダイダラボー)伝説の地であったといわれています。

7 赤沼の赤大根伝説

昔、赤沼に巨大な赤大根ができましたが豪雨で洪水が起こって流れ、跡地は巨大な沼になり、そこを赤沼と名付けたといわれています。逆に流れてきた赤大根を捨てた人がいて切り干ししようとして刻んで並べると筵(敷物)60枚分になったので、そこから六十枚と呼ばれるようになったといわれています。

8 わたなべの飴本舗

浅草で修行をした初代が昭和7年(1932)に創業しました。「いわき市石炭・化石館ほるる」の開館で「いわきらしい土産を作ろう」と考案されたのが名物・石炭飴です。真っ黒で本当の石炭のように見えますが、じつはニッキ飴です。

9 曾我兄弟供養塔(来迎寺)

境内に「曾我の仇討」で有名な曾我十郎祐成(兄)、曾我五郎時致(弟)の供養塔があります。領地争いで父・伊東祐泰が源頼朝の家来・工藤祐経に殺され、その仇討で曾我兄弟が工藤の屋敷に忍び込む際に雨が降り、その雨音に紛れて見事に工藤を討ちました。雨乞いの信仰と結びつき、日本全国で曾我兄弟の供養塔が作られました。来迎寺の供養塔もそのひとつと思われます。

10 神照寺の一鍬塚

応永年間(1394～1428)、薬王寺が雷火で焼失したさいに僧・隆忠は寺院再興を誓願して土中に入りました。往来の人々が一鍬の土をかけて隆忠の入定を見届けたといわれています。その後、隆忠は岩城隆忠(?～1462。いわき統一を果たした名君)に生まれ変わって文安3年(1446)に薬王寺を再建したといわれています。



郷土研究家・高木誠一の名著『磐城北神谷の話』に「死人田」のことが記録されています。

のちに澤村勘兵衛が無実の罪で切腹すると歎願上人は勘兵衛の供養塔を建立しました。

土中入定した隆忠上人ですが七日間、土の中から鐘の音が聞こえたとか…

テイクアウトも可能です!

仇討は旧暦5月28日のことで、その時期の雨は「曾我の雨」といわれています。

鮑は女性のシンボルで昔は「愛宕花園神社の氏子は鮑を食べない」という風習などもあったといわれています。

近郊から見物客が押し寄せて今日も対置、明日も対置、というほどの大当たりだったとか!

田舎裏でオーナーのTADAさんの手作り料理を食べながら交流を楽しみます!

わざわざトンカチで鮑を叩き割って石炭しさを再現しています!

なんと「礫は八文、首斬は九文の見物料だった」という記録があります…

神谷では「夏井川の西戦」や「安養寺山(澤村神社の北)の立穴」も有名な博打場だったそうです。

赤沼の巨人(ダイダラボー)伝説
一反歩は小学校のプール(50m×20m)くらいの広さです。
「まんごう」(巨人の足跡)は戦後の耕地整理でなくなったとか…

赤沼の赤大根伝説
赤大根の伝説は「写真で撮るいわきの伝説」(草野日出雄)に記されています。

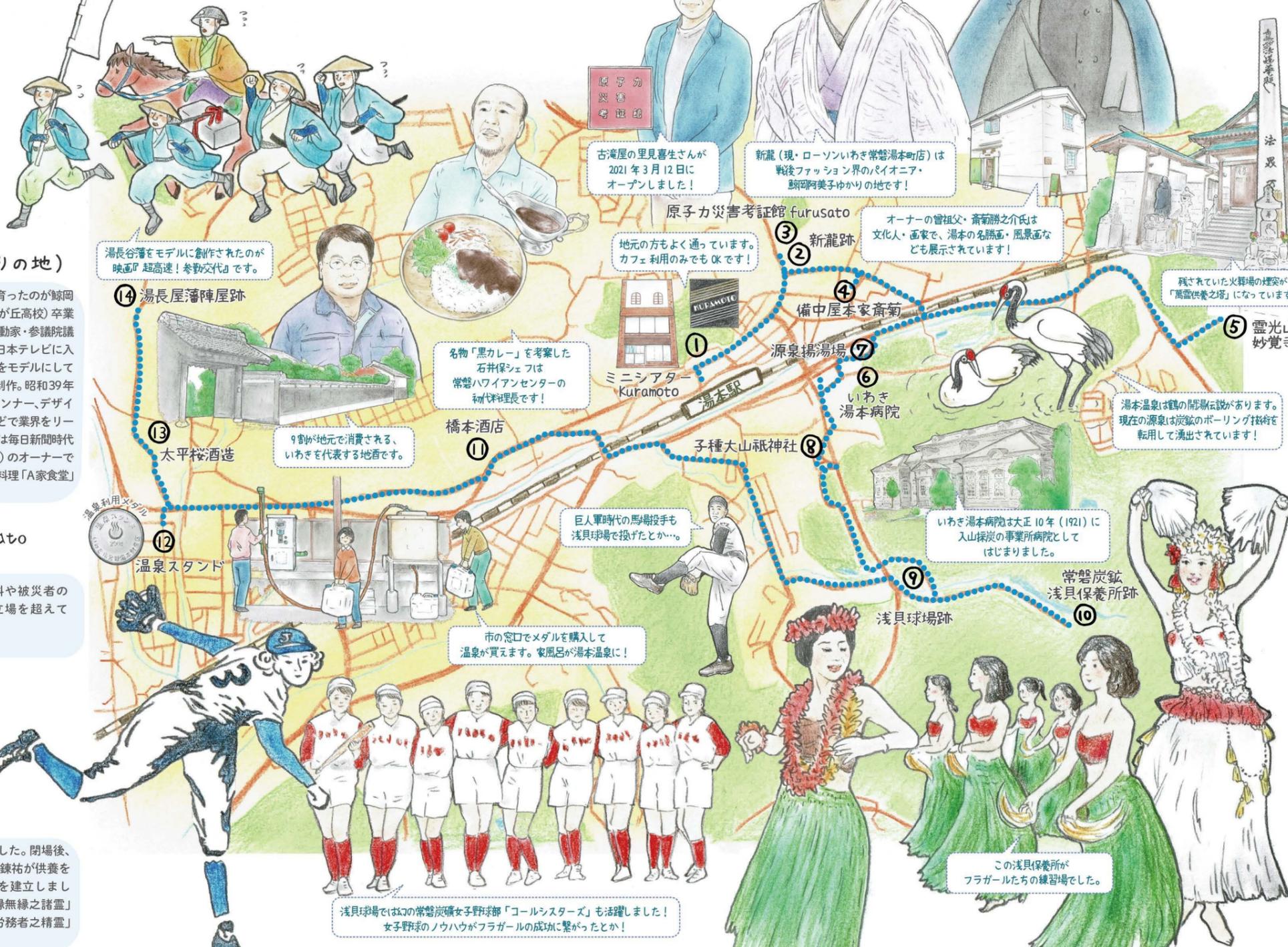
※このマップは現地取材や資料に基づいて作成されていますが専門家によって諸説あります。真実はあなた自身が現地を訪れてみて発見してください。

あ
諸
り
説

KUSANO/KABEYA 草野・神谷

湯本温泉郷で黒いダイヤの夢の跡を追う

～鯨岡阿美子の新瀧跡から コールシスターズの浅貝球場へ～



1 湯本駅前ミニシアター Kuramoto

2019年2月に湯本好き、映画好き、本好きのオーナー夫妻が始めたミニシアターです。1階はカフェで書籍や雑貨なども販売しています。

2 新瀧跡 (鯨岡阿美子ゆかりの地)

当地には湯本きっての名旅館・新瀧がありました。そこで育ったのが鯨岡阿美子 (1922～1988) です。磐城高等女学校 (現：磐城桜が丘高校) 卒業後、毎日新聞政治部初任の女性記者となり、市川房枝 (婦人運動家・参議院議員) の知遇を得て弟子を自称しました。昭和28年 (1953)、日本テレビに入社して初の女性ディレクターとなると菅原文太や岡田真澄をモデルにして日本初のファッション番組『僕と私のファッション』を制作。昭和39年 (1964) に「アミコ・ファッションズ」を発足させるとバタンナー、デザイナーの養成、全米18都市を巡る「ジャパン・ショウ」開催などで業界をリードし続けました。ちなみに夫の古波蔵保好 (1910～2001) は毎日新聞時代の同僚で名エッセイストでしたが、沖縄料理店「美栄」(みえ) のオーナーでもあり、その「美栄」で修行をしたのが湯本駅前の沖縄すば料理「A家食堂」(湯本町天王崎38 / TEL: 0246-84-7420) です。

3 原子力災害考証館 furusato (古滝屋9階)

東日本大震災で発生した福島原発事故に関する資料や被災者の遺品などを展示しています。「賛成/反対」という立場を超えて学び、考え、話し合いをする場です。
※入館無料 / お問い合わせ: 0246-43-2191

4 備中屋本家齋菊

明治時代に建築された蔵を利用して2020年9月にオープンした蔵カフェです。湯本の郷土資料や地元アーティストの作品などを鑑賞しながらコーヒー、日替わりスイーツが楽しめます。

5 霊光山妙賞寺

1910～1960年頃まで当地に湯本町の火葬場がありました。閉場後、無数の遺骨が散乱した状態でしたが、日蓮宗僧侶の大越練祐が供養を行い、檀信徒の協力を得て昭和41年 (1966) に妙賞寺を建立しました。火葬場の煙突が改装されて「旧火葬場に係わる有縁無縁の諸霊」「常磐炭鉱殉難者一同之霊」「常磐炭鉱朝鮮人強制連行労働者之精霊」を慰める「萬霊供養之塔」になっています。

6 いわき湯本病院

大正10年 (1921) に大倉財閥系の入山探炭 (1944年に国策で浅野一郎の磐城炭礦と合併して常磐炭礦となる) の事業所病院として開設されました。落盤、ガス漏れ、出水といった緊急時の事故対応で数多くの労働者の命を救い、また東北大学と連携して鉱山医学研究室を設置し、熱中症「あかまり」の研究などを行いました。昭和38年 (1963) に医療法人常磐会いわき湯本病院となりました。

14 湯長谷藩陣屋跡

湯長谷藩をモデルに制作されたのが映画『超高速! 参勤交代』です。

13 太平桜酒造

9割が地元で消費される、いわきを代表する地酒です。

12 温泉スタンド

市窓口でメダルを購入して温泉が買えます。家風呂が湯本温泉に!

7 いわき湯本温泉 源泉揚湯場

温泉を安定供給するために昭和51年 (1976)、湯本財産区、常磐興産、いわき市が常磐湯本温泉株式会社を設立。地下620mに10数本のボーリング坑を打ち込んで花崗岩内の温泉 (58度) を湧出し、湯本の旅館やホテル、スパリゾートハワイアンズなどに送っています。ちなみに湯本温泉は古代、ある若夫婦が弱っている鶴を温泉で回復させ、後日、鶴は美女に化けて「ここで湯治を始めなさい」と巻物を授けて開湯したといわれています。

8 子種大山祇神社

温泉神社の社伝では子種五郎隆顕と妻の花形姫は不妊で悩んでいましたが、子安山住神を祀ると清泉が湧き出して飲用すると、たちまち懐妊したといわれています。不妊に悩む夫婦が参詣し、『湯本温泉記』では水汲みの際に男性と出逢うと男の子、女性と出逢うと女の子を授かるとあります。湯本は温泉ばかりで真水は少なく慢性的な水不足で住民は子種さんまで水を汲みに来ました。

11 橋本酒店

巨人軍時代の馬場投手も浅貝球場で投げたとか...

10 常磐炭礦浅貝保養所跡

この浅貝保養所がフラガールたちの練習場でした。

9 浅貝球場跡

昭和22年 (1947)、常磐炭礦は硬式野球チーム (のちの「オール常磐」) を結成し、のちには5000名収容の浅貝球場を造成しました。親善交流で巨人軍二軍投手の馬場正平 (のちのジャイアント馬場) が登板したこともあります。常磐炭礦チームは都市対抗の東北大会は5回優勝でしたが、全国大会では7回出場中4回も日本石油 (横浜市) に敗北し、これは「石炭対石油」の代理戦争で新旧エネルギー交代の暗示となりました。昭和46年 (1971) の常磐炭礦磐城炭業所閉山と同時にチームも解散し、その歴史を閉じました。ちなみに昭和31年 (1956) に常磐炭礦は女子野球チーム「コールシスターズ」を結成し、浅貝球場でも練習・試合を行っています。石炭衰退の影響で昭和37年 (1962) に閉鎖しましたが、選手のほとんどが炭鉱関係者の娘たちで東京・世田谷の女子寮で合宿生活をしながら裁縫、書道、茶道などの講義を受けるという女子教育のノウハウが後年のフラガールの育成、成功に繋がったといわれています。

安政頃、片寄平蔵が内郷・弥勒沢で石炭を発見すると、やがて東京資本が参入して大規模な石炭採掘が開始されました。湯本では石炭1トんに40トンもの温泉が排水され、湯本温泉は抗議しますが石炭発掘は国策であると無視され、ついに大正8年 (1919)、湯枯れしました。温泉関係者は山水を汲んで「憎っき石炭」で湯を沸かしながら必死で温泉営業を続け、昭和17年 (1942) に炭鉱会社が温泉供給を約束してようやく危機を脱しました。しかし戦後、石炭産業が衰退すると常磐炭礦は起死回生に温泉を利用した常磐ハワイアンセンター (現・スパリゾートハワイアンズ) を開業して成功に導きました。温泉と石炭のまち・湯本を巡ります。

14 湯長谷藩陣屋跡案内板

寛文10年 (1670)、磐城平藩2代藩主・内藤忠興の隠居の際に次男の政亮に1万石の分与が許され、湯長谷藩ができました。歴代藩主は名君が多いとされ、磐城平藩の内藤家は延享4年 (1747) に延岡 (現・宮城県) に転封されますが、湯長谷藩の内藤家は幕末まで存続しました。しかし戊辰戦争で新政府軍に敗北し、明治4年 (1871) に廃藩されました。第38回日本アカデミー賞最優秀脚本賞 (土橋章宏) を受賞した映画『超高速! 参勤交代』は湯長谷藩をモデルにしています。

13 太平桜酒造

享保10年 (1725) 創業。当時、湯長谷藩内には酒屋がなく藩外で酒を買うと藩の資金が流出するので藩内で酒造をはじめ、それが太平桜のはじまりといわれています。

12 いわき湯本温泉スタンド

ガソリンスタンドのように温泉が購入できます。事前に市窓口で利用メダルを購入し、温泉を持ち運ぶタンクに入れて持ち帰ります。自分好みの使い方温泉を楽しめます。

11 橋本酒店

創業100年を超える老舗酒店ですがタイで日本語教師として働いていた経験を持つオーナー夫妻が美味しいタイ料理を楽しめるカフェ & バーを開業しました。また常磐ハワイアンセンターの初代料理長・石井保シェフが湯本駅前で経営していた「レストランヤシロ」の伝説の名物メニュー「黒カレー」を引き継いで、これも人気です。

10 常磐炭礦浅貝保養所跡

当地で昭和40年 (1965)、日本初のフラダンス、ポリネシア民族舞踊の学校として常磐音楽舞踊学院が設立されました。講師のカレイナ二早川の指導を受け、初代フラガールとなった第一期生18人 (リーダー・レイモ二豊田) の常磐ハワイアンセンターのデビューと活躍を描いたのが映画『フラガール』です。

※このマップは現地取材や資料に基づいて作成されていますが、専門家によって諸説あります。真実はあなた自身が現地を訪れてみて発見してください。



11 大須賀瘦玉夫人の碑 (鷹の巣山・共同墓地内)

瘦玉とは明治時代に活躍した漢学者・教育者・郷土史家の大須賀筠軒 (1841～1912) の妻・茂登 (1846～1878) のことです。大須賀次郎左衛門 (五郎丸) 家の8代目、筠軒 (神林復所の三男) は婿養子でした。漢詩、書画、絵に通じていましたが、残念なことに肺病で33歳の若さで亡くなりました。

10 波立寺・弁天島

寺伝では大同元年 (806)、徳一大師が海上鎮護を念じ、波から出立した薬師如来 (波立薬師) を安置して創建したといわれています。眼前の395号線 (四倉久之浜線) を超えると弁天島がありますが、人食いの鰐鯨が美青年に化けて寺娘を誘い出して食い殺したという伝説があります。「鰐が淵」といい、悲恋に苦しむ若者が飛び込み、遺体が上がらなかったとか。

9 波立海岸展望台

西行歌碑、内藤露沾歌碑があります。波立は美しい玉砂利の海岸ですが、玉砂利を持ち帰ると眼病になるという伝承があります。

田之網に住んでいた漫画家・武内つなよし

漫画『赤銅鈴之助』の作者・武内つなよしは横浜出身で日曹工業で働いていましたが兵隊に召され、千島で終戦を迎えました。戦後は田之網・富久浜炭鉱で炭夫をしたり、山仕事をしていました。赤銅鈴之助の必殺技「真空斬り」は木の悦採音からイメージして誕生したといわれています。昭和27年 (1952) に上京し、漫画家デビューを果たしました。

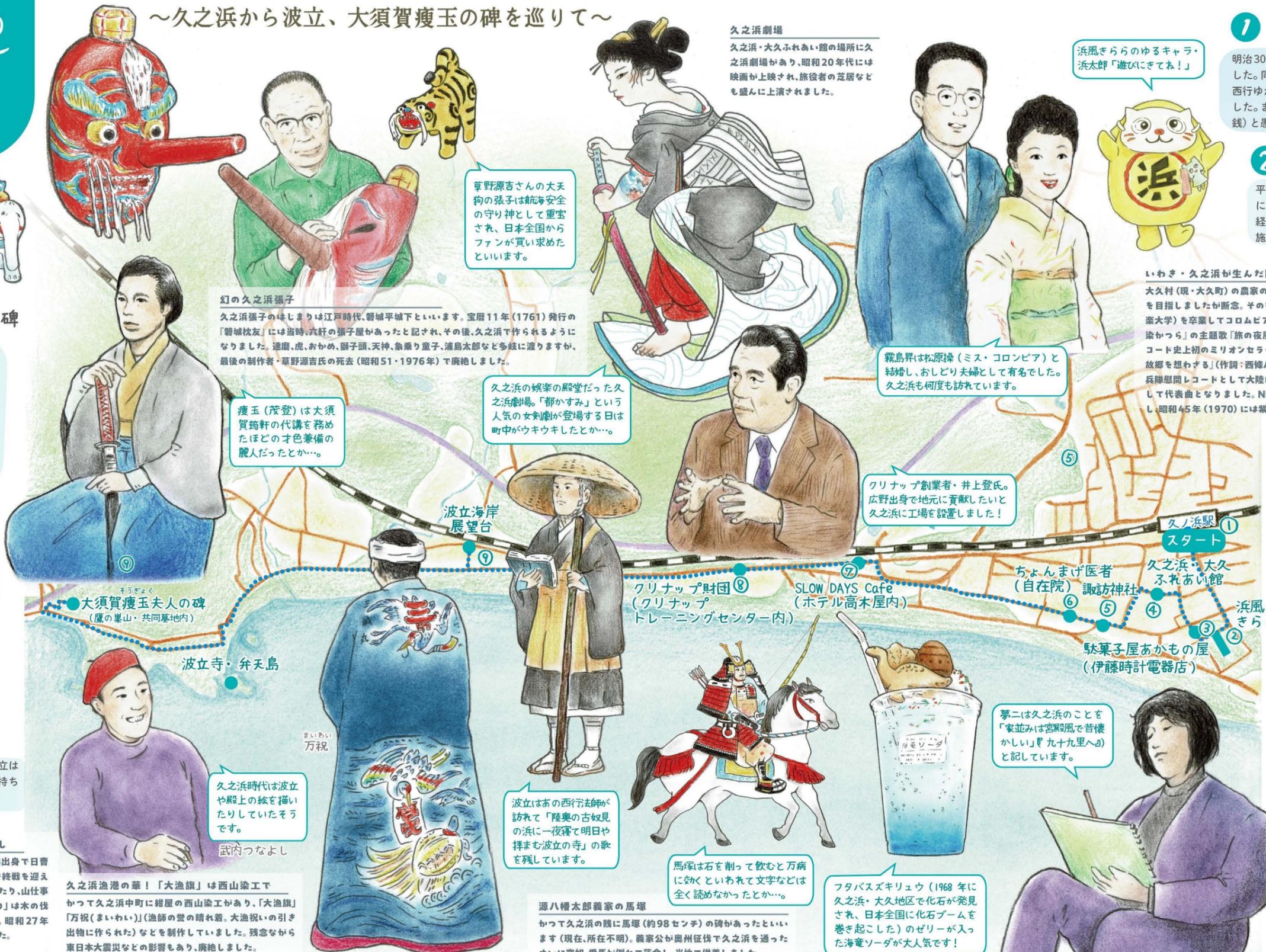
8 公益財団法人クリナップ財団 (クリナップトレーニングセンター内)

日本初のシステムキッチンを開発したクリナップの創業者・井上登 (1920～2008) は昭和32年 (1962)、久之浜工場 (現・クリナップトレーニングセンター) を開設しました。2012年には震災復興支援としていわきや福島若者を支援するクリナップ財団が設置されました。

距離: 約10キロ サイクリング所要時間: 約60分 ウォーキング所要時間: 約150分

幼馴染のあの海で、誰か故郷を想わざる

～久之浜から波立、大須賀瘦玉の碑を巡りて～



幻の久之浜張子

久之浜張子のはじまりは江戸時代、磐城平城下といわれています。宝暦11年 (1761) 発行の『磐城枕草子』には当時、六軒の張子屋があったと記され、その後、久之浜で作られるようになりました。連鹿、虎、おかめ、獅子頭、天神、象乗り童子、浦島太郎など多岐に渡りますが、最後の制作者・草野源吉氏の死去 (昭和51・1976年) で廃絶しました。

瘦玉 (茂登) は大須賀筠軒の代講を務めたほどの才色兼備の麗人だったとか...

久之浜の娯楽の殿堂だった久之浜劇場。「都かすみ」という人気の女剣劇が登場する日は町中がウキウキしたとか...



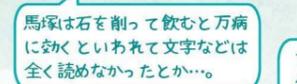
久之浜時代は波立や殿上の絵を描いたりしていたそうです。

武内つなよし

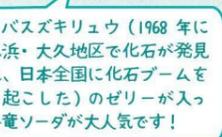
久之浜漁港の華! 「大漁旗」は西山染工でかつて久之浜町に紺屋の西山染工があり、「大漁旗」「万祝 (まいわい)」「漁師の登の晴れ着。大漁祝いの引き出物に作られた」などを制作していました。残念ながら東日本大震災などの影響もあり、廃絶しました。

波立はあの西行法師が訪れて「陸奥の古奴見の浜に一夜寝て明日や拝まむ波立の寺」の歌を残しています。

源八幡太郎義家の馬塚 かつて久之浜の跡に馬塚 (約98センチ) の碑があったといわれています (現在、所在不明)。義家が奥州征伐で久之浜を通った際に突如、愛馬が倒れて落命し、当地で供養されました。



馬塚は石を削って飲むと万病に効くといわれて文字などは全く読めなかったとか...



フタバズキリュウ (1968年に久之浜・大久地区で化石が発見され、日本全国に化石ブームを巻き起こした) のゼリーが入った海電ソーダが大人気です!



茅二は久之浜のことを「家並みは宮殿風で昔懐かしい」『九十九里へ』と記しています。

久之浜の名刹・龍光寺

寺伝では大同元年 (806)、徳一の開山で、建長7年 (1255)、執権・北条時頼が中興したといわれています。境内に大須賀次郎左衛門 (五郎丸) の碑があります。『御城と船戸』(大須賀良之助) によれば大須賀家は戦国時代、大久城主で岩城家に仕えていたが岩城家が関ヶ原で没落すると久之浜・船戸に隠棲しました。江戸時代初期に海外と密貿易をしていた紀伊 (和歌山) の紀三太夫が難船して久之浜に漂流し、それを助けたことで五郎丸も密貿易を始め巨万の財を蓄えたとされています。2代目次郎左衛門が初代の供養として享保15年 (1730) に綱造地蔵尊を建立しています。

久之浜劇場

久之浜・大久ふれあい館の場所に久之浜劇場があり、昭和20年代には映画が上映され、旅役者の芝居なども盛んに上演されました。

浜風きららのゆるキャラ・浜太郎「遊びに来てね!」

霧島昇は元原操 (ミス・コロムビア) と結婚し、おしどり夫婦として有名でした。久之浜も何度も訪れています。

クリナップ創業者・井上登氏。広野出身で地元で貢献したいと久之浜に工場を設置しました!

クリナップ財団 (クリナップトレーニングセンター内)

SLOW DAYS Cafe (ホテル高木屋内)

ちゃんまげ医者 (自在院) 諏訪神社

久之浜・大久ふれあい館

駄菓子屋あかも屋 (伊藤時計電器店)

1 久之浜駅

明治30年 (1897) 8月に日本鉄道の駅として開業しました。同年10月にはさっそく幸田露伴が東北取材で西行ゆかりの波立寺を訪れましたが、あいにくの雨でした。また岡岡行きの人力車の値段が高い (一里30銭) と愚痴を『うつし系日記』に記しています。

2 浜風きらら

平成23年 (2011) 9月、久之浜第一小学校敷地内に仮設店舗としてオープンした「浜風商店街」を経て平成29年 (2017) 4月にコミュニティ商業施設「浜風きらら」がオープンしました。

いわき・久之浜が生んだ国民的歌手・霧島昇

大久村 (現・大久町) の農家の三男で、久之浜第一小学校卒業後、上京してボクサーを目指しましたが断念。その後、音楽に目覚め、苦学して東洋音楽学校 (現・東京音楽大学) を卒業してコロムビアに入社しました。昭和13年 (1938) に松竹映画「愛染かつら」の主題歌「旅の夜風」をミス・コロムビアの松原操と吹き込むと日本レコード史上初のミリオンセラー (120万枚) に。また昭和15年 (1940) 発表「誰か故郷を想わざる」(作詞: 西條八十 / 作曲: 古賀政男) は難解で売れないと判断され、兵隊慰問レコードとして大陸に送られたが望郷の念に駆られた兵隊たちが愛唱して代表曲となりました。NHK紅白5回出場、生涯で3000曲をレコーディングし、昭和45年 (1970) には紫綬褒章を受章しました。

3 駄菓子屋あかも屋 (伊藤時計電器店)

戦前は夏井屋商店という「あらもの (荒物=日用雑貨) 屋」で戦後に時計、電器なども扱うようになったとか。店名は「荒物が詠った説」や「アカ (畑のこと) の種や苗を扱ったから説」などがあります。久之浜のこどもたちの楽しい「たまり場」です。

4 久之浜・大久ふれあい館

鉄筋コンクリート3階建てで東日本大震災の教訓を後世に伝える資料室などが設けられています。津波発生時には同ビル周辺の住民約260人の緊急津波避難ビルとなり、3日分の水と食料等を保管した備蓄倉庫、非常用発電設備などがあります。

5 諏訪神社

社伝では康平6年 (1063) 勧請といわれ、社殿は貞享元年 (1684)、磐城城主・内藤義概公の造営です。明治40年 (1907)、当時24歳の竹久夢二 (1884～1934) が読売新聞の連載で東北取材し、神社をスケッチしています。また神社前の駄菓子屋が車夫で四倉まで人力車で向かいました。

※このマップは現地取材や資料に基づいて作成されていますが、専門家によって諸説あります。真実はあなた自身が現地を訪れてみてください。

距離：約10キロ サイクリング所要時間：約60分 ウォーキング所要時間：約150分

磐城統一！戦国大名・岩城氏の夢の跡・大館城跡へ

～四家酒造から吉野せいゆかりの地、産業戦士の像まで～

平安時代末に陸奥国岩城郡の豪族として発祥した岩城氏は鎌倉時代以降には岩城・白土・好嶋などに分裂して対立します。しかし15世紀頃に白土系岩城氏(10代親隆・11代常隆の頃)が台頭し、ついに宿願であった「磐城地方統一」を果たしました。内郷駅から高坂を経て久保姫ゆかりの大館城、好間・小田炭鉱ゆかりの地などを巡ります。

1 内郷駅

駅前広場で毎夏「いわき回転やぐら盆踊り大会」が開催されます。昭和27年(1952)に炭鉱事故犠牲者の慰霊で始まりました。珍しい回転やぐらは常磐炭礦の羽重田政門係長の発案で常磐炭礦が製作に加りました。当初は力自慢の炭鉱夫が動かす人力でしたが昭和34年(1959)、モーター駆動の電動式回転やぐらとなりました。

2 浅野翁頌徳記念館跡

浅野総一郎(嘉永元年・1848～昭和9年・1934。富山・氷見出身)は横浜で石炭商を始め、常磐炭田に進出して磐城炭礦(後に大倉財閥の入山採炭と合併して常磐炭礦となる)を創業しました。石炭ガス製造後の燐炭(コークス)がセメント製造の燃料に使えると浅野セメント(現・太平洋セメント)を創業して成功し、「セメント王」と呼ばれました。昭和5年(1930)その偉業を記念して当地に浅野翁頌徳記念館が建てられました。昭和23年(1948)には福島県演劇コンクールの予選会場となり、いわき中の演劇集団が結集し、「戦後いわきの市民演劇はここから始まった」と『いわき市史』に記載されています。

3 いわき総合高校

毎年、全国区で活躍する劇作家を招聘し、書き下ろし脚本の提供と演出指導を受けます。2014年、船屋水法氏の脚本『ブルーシート』は第58回岸田國士戯曲賞を受賞しました。

4 四家酒造

創業弘化2年(1845)。農業の傍ら薬屋なども手掛けていた四家又左衛門(又兵衛)福房は俳号を「真酒舄(ますみ)」(真の酒飲み)と名乗るほどの酒好きで酒造を始めました。当代一流の文化人、教養人でもあり、古典、地誌など多くの文献を蒐集し、第一級の地域研究資料となっています。

5 さかえ幼稚園

創業者の吉田サタ(明治40年・1907～平成27年・2015)は平・紺屋町出身で福島女子師範学校卒業後、好間村で小学校教員を務めていましたが、炭鉱の組合運動に参加し、妊娠中にも関わらず治安維持法違反で平警察に逮捕されました。東京に移住して教職を続けますが東京大空襲に遭い、いわきに帰郷します。昭和35年(1960)当時、内郷に幼稚園がなく内郷の子が遠く平の幼稚園に通う途上で交通事故死する悲劇があり、53歳にしてさかえ幼稚園を開園しました。100歳を超えても幼稚園で働き、いまも地域で語り継がれる名物園長でした。

6 大館城跡

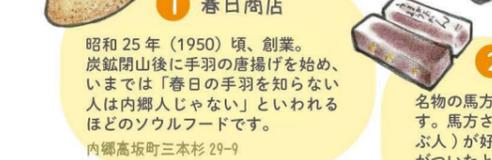
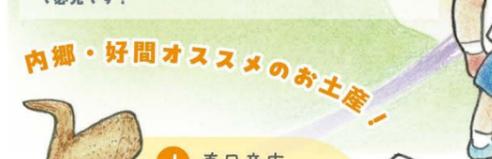
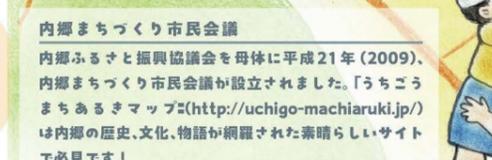
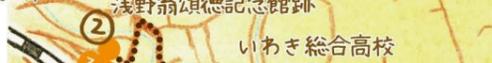
磐城統一を果たした白土系岩城氏の居城です。当地で生まれたのが岩城重隆(?～1569)の長女・久保姫(1521～1594)です。「東北一の美女」と評判でしたが、白河の結城家に嫁ぐ途上に伊達晴宗(1519～1578)に強引に略奪されました。衝撃の出会いですが意外にも2人は相思相愛となり、六男五女に恵まれ、孫として生まれたのが伊達政宗(1567～1636)です。久保姫は痲瘡で片目を失明した幼少期の政宗を慈しみ、政宗も生涯、祖母を思慕したといえます。政宗は久保姫の死後、菩提供養として仙台に裁松院を建立しています。



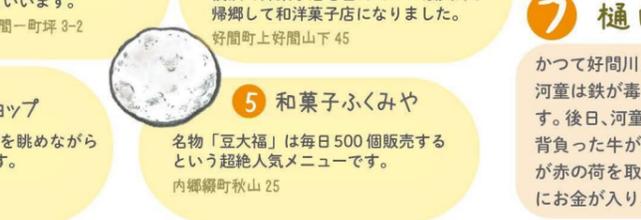
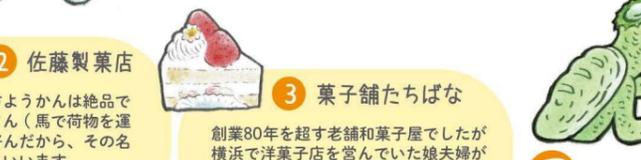
浅野総一郎



昭和48年(1973)、老朽化で惜しくも解体されました!



旧・福島県立内郷高等学校で2004年に現校名に。演劇教育に力を入れています!



産業戦士の像「進発」。除幕式には入坑夫に餅が配られたそうです。

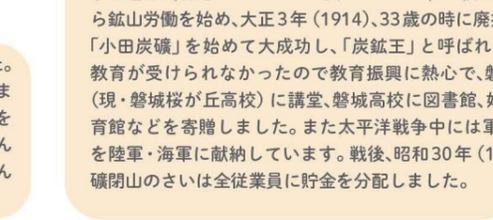
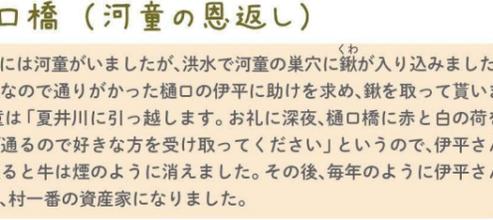
産業戦士の像「進発」



長久保ツネ 長久保のしろ巻本舗



小田吉次像(好間中学校入口)



12 産業戦士の像「進発」

昭和19年(1944)、戦争遂行のために「軍需生産美術推進隊」が結成され、5人の彫刻家(圓鯨勝二、中村直人、木下繁、長沼孝三、峰孝)が当地にあった古河好間炭礦を訪れて「進発」(挺身隊員と少年工のコンクリート像)を塑像しました。当時、日本全国11か所の優秀な軍需生産工場に産業戦士の像が作られ、常磐炭礦跡地(いわき市石炭・化石館ほるる)にも現存しています。

11 白土屋

「好間の人なら知らない人はいない」という名物シュークリーム屋さんです。

10 長久保のしろ巻本舗

昭和9年(1934)創業。創業者・長久保ツネさんが大根にシンを巻いて作った漬物が「長久保のしろ巻」です。炭鉱労働者の塩分補給に最適で大人気となり、いわき名物となりました。

9 吉野せい・三野混沌墓所(龍雲寺)

吉野せい(明治32・1899～昭和52・1977)は小名浜出身の文学少女で小学校教員でしたが、日本聖公会平講義所に赴任した伝道師・山村暮鳥(1884～1924。群馬・高崎出身)に文学指導を受け、また暮鳥の盟友・詩人の三野混沌(1894～1970。平窪・曲田出身)と出会って結婚しました。混沌は好間・菊山(龍雲寺の寺領)で詩作や組合運動、農地解放運動に明け暮れますが収入は乏しく、せいも労働、家事、子育てと奔走しました。混沌死後、草野心平の勧めで、せいは半世紀ぶりに文筆活動を再開し、昭和49年(1974)発表の『演をたらしめた神』は大宅壮一ノンフィクション賞、田村俊子賞を受賞。76歳の「百姓バツパ」の快挙に世間は唖りました。

8 小田吉次像(好間中学校入口)

小田吉次(明治14・1881～昭和32・1957)は秋田出身で10代から鉱山労働を始め、大正3年(1914)、33歳の時に廃坑を買い取って「小田炭礦」を始めて大成功し、「炭鉱王」と呼ばれました。極貧教育が受けられなかったため教育振興に熱心で、磐城高校中学校(現・磐城桜が丘高校)に講堂、磐城高校に図書館、好間中学校に体育館などを寄贈しました。また太平洋戦争中には軍用機「小田号」を陸軍・海軍に献納しています。戦後、昭和30年(1955)に小田炭礦閉山のさいは全従業員に貯金を分配しました。

このマップは現地取材や資料に基づいて作成されていますが、専門家によって諸説あり、真実はあなた自身が現地を訪れてみてください。

